

平成27年度箕面市決算の概要

<>の数値は、前年度との比較

決算の全体像（普通会計）

◆ 普通会計決算額

地域の元気臨時交付金を活用した事業が終了したことなどにより、歳入・歳出総額とも前年度から減少。地方消費税交付金が大幅に増加したことなどにより、実質収支は増加。

歳入総額	454億10百万円	<▲ 4億85百万円、▲ 1.1% >
歳出総額	420億32百万円	<▲ 15億63百万円、▲ 3.6% >
実質収支	21億16百万円	<+ 3億43百万円、+19.4% >

◆ 主な歳入の状況

- ・ 市税収入 234億14百万円 <+4億60百万円、+2.0% >
個人市民税 +3億46百万円、法人市民税 ▲81百万円、固定資産税 +1億60百万円
都市計画税 +51百万円、市たばこ税 ▲23百万円
- ・ 各種交付金 30億32百万円 <+10億31百万円、+51.5% >
地方消費税交付金 +10億29百万円
- ・ 国・府支出金 98億73百万円 <+5億11百万円、+5.5% >
施設型給付費負担金 +9億31百万円、保育所運営費負担金 ▲5億57百万円
社会資本整備総合交付金 +1億67百万円、生活保護費負担金 +1億8百万円
- ・ 普通交付税 8億19百万円 <▲50百万円、▲5.7% >
- ・ 地方債 26億14百万円 <+2億34百万円、+9.8% >
箕面駅前駐車場・駐輪場整備 +3億70百万円、北大阪急行線延伸設計 +2億4百万円
臨時財政対策債 ▲3億50百万円

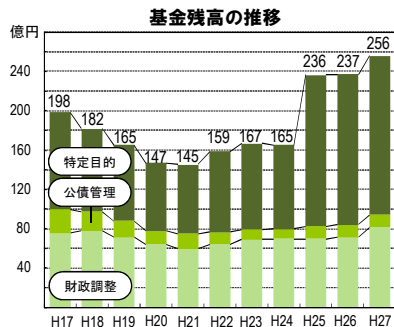
◆ 主な歳出の状況

- ・ 義務的経費 224億11百万円 <+4億38百万円、+2.0% >
人件費（給料、退職手当など） ▲86百万円
公債費（H16年度減税補てん債の返済終了など） ▲4億40百万円
扶助費（教育・保育等給付費、生活保護費など） +9億64百万円
- ・ 普通建設事業費 30億74百万円 <▲19億45百万円、▲38.7% >
箕面駅前駐車場・駐輪場整備 +6億45百万円、保育所施設の整備完了 ▲2億77百万円
電子黒板の整備完了 ▲3億46百万円
- ・ その他
補助費等（病院事業会計への繰出など） ▲3億21百万円
繰出金（特別会計国民健康保険事業費への繰出など） +2億66百万円

収支バランスの状況（普通会計）

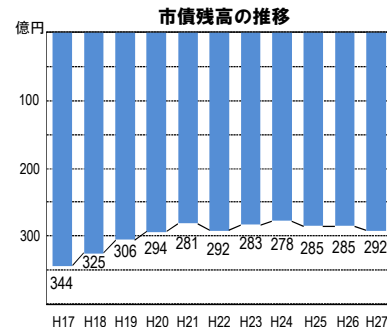
◆ 基金残高 256億6百万円 <+18億99百万円、+8.0% >

彩都の丘小中一貫校の増築等のために学校教育施設整備基金を6億80百万円取り崩すなど、将来への投資に基金を活用した。一方で、今後の財政需要に備え、都市施設整備基金や北大阪急行南北線延伸整備基金などに積立てを行った結果、基金残高は前年度比で18億99百万円の増となった。



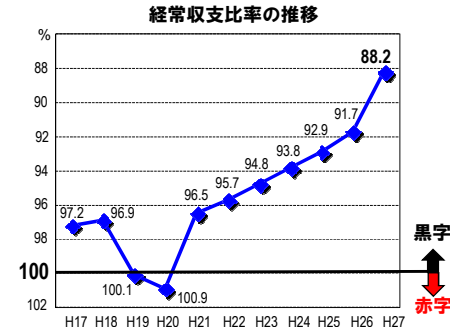
◆ 市債残高 291億96百万円 <+6億51百万円、+2.3% >

箕面駅前駐車場・駐輪場の整備や、北大阪急行線の延伸設計事業などに係る施設整備事業債を12億84百万円発行したほか、災害復旧工事の財源として13百万円の市債発行を行った。臨時財政対策債を合わせて26億14百万円新規発行した一方で、19億63百万円の返済を行ったことから市債残高は微増となった。



◆ 経常収支比率 88.2% <▲3.5ポイント >

社会保障関係費が増加したものの、一部地方債の返済終了による公債費の減などに加え、景気の回復傾向などによる市税等の経常収入の増により、昨年度から3.5ポイント改善した。



健全化判断比率等の状況

いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準は、平成27年度決算における数値。

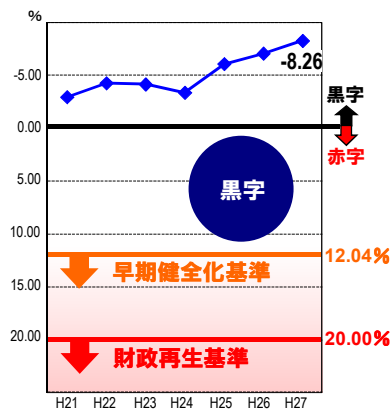
早期健全化基準を超えた団体は、破たん一步手前の状況で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード)

財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード)

このほか、公営企業の経営状況を示す資金不足比率については、病院事業、水道事業、公共下水道事業、競艇事業のいずれの会計も資金不足はない。

◆ 実質赤字比率

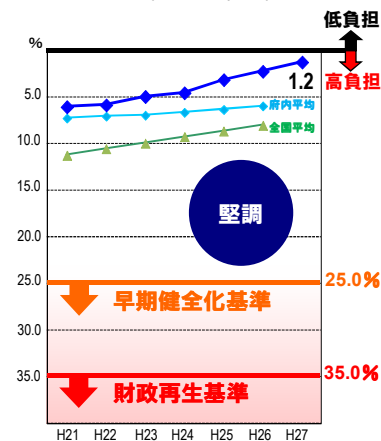
一般会計等の赤字の大きさで、財政運営の深刻度を示す。



市税収入の伸びなどによる一般会計の収支改善により、1.2ポイント改善

◆ 実質公債費比率

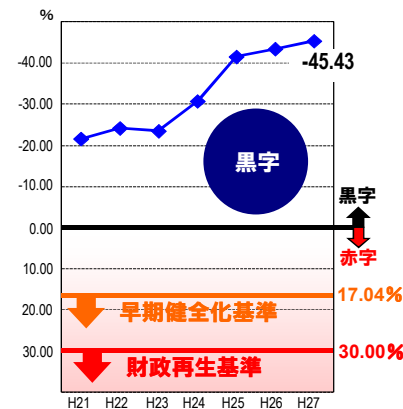
一般会計等の市債の返済額などの大きさと、資金繰りの危険度を示す。



一部市債の返済終了に伴う公債費の減などにより、1.0ポイント改善

◆ 連結実質赤字比率

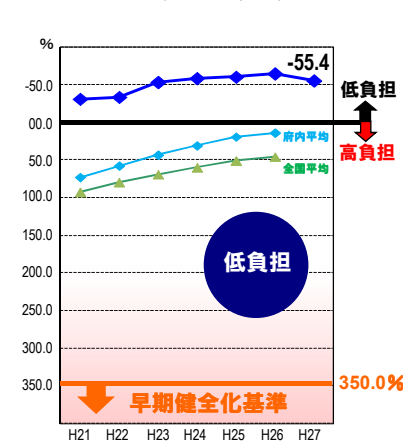
一般会計の他、すべての特別会計、公営企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の大きさで、財政運営の深刻度を示す。



一般会計の収支改善、特別会計国民健康保険事業費の累積赤字縮減などにより、1.92ポイント改善

◆ 将来負担比率

一般会計等の市債や将来支払う可能性のある負担などの残高の大きさと、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。



彩都の丘小中一貫校増築等に係る債務負担行為を新規に設定したことなどにより、9.3ポイント増えたものの、低負担を維持